

境界の彼方

「境界の彼方」の OP

こどく ほほ め ぬ
孤独が頬を濡らす 濡らすけど
よ あ けはい しず み
夜明けの気配が静かに満ちて
わたし そら まね
私を空へ招くよ
きぼう かなた ま い
希望が彼方で待ってる そうだよ行くよ

まよ きみ さが たび
迷いながらも君を探す旅
ちが いしき て ふ
すれ違う意識 手が触れたよね
つか
捕まえるよしっかり
もと あ ころ ゆめ あかし
求め合う心 それは夢の証

たが う たび ひ
互いを受けとめる度に 惹かれてく
かな ひ び
悲しい日々はもういない
たが う い よろこ
互いを受けとめて 生きる喜びに
きつときつと ふたり め ざ
きつときつと ふたり目覚めるよ

う あい やさ はね おと
生まれた愛は優しい羽の音
きずつ はな
傷付けたくない でも離さない
つか なんと
捕まえてよ何度も
めぐ あ さだ ゆめ とし わた
巡り合う定め 夢で時を渡れ

いた ひ さ むね きみ よ
痛みに引き裂かれ 胸は君を呼ぶ
うつ ひ び
虚ろな日々はもういない
いた ひ さ い よろこ
痛みに引き裂かれ 生きる喜びを
きつときつと ふたり たし
きつときつと ふたり確かめる

こどく ほほ め ぬ
孤独が頬を濡らす 濡らすけど
よ あ けはい しず み
夜明けの気配が静かに満ちて
わたし そら まね
私を空へ招くよ
きぼう かなた ま
希望が彼方で待ってる 待ってるはずさ

たが う たび ひ
互いを受けとめる度に 惹かれてく

2

こどくがほほをぬらす ぬらすけど

孤独 頬 濡 濡

よあけのけはいがしずかにみちて

夜明 気配 静 満

わたしをそらへまねくよ

私 空 招

きぼうがかなたでまってる そうだよくよ

希望 彼方 待 行

まよいながらもきみをさがすたび

迷 君 探 旅

すれちがういしき てがふれたよね

違 意識 手 触

つかまえるよしっかり

捕

もとめあうころ それはゆめのあかし

求 合 心 夢 証

たがいをうけとめるたびに ひかれてく

互 受 度 惹

かなしいひびはもういない

悲 日々

たがいをうけとめて いきるよろこびに

互 受 生 喜

きっときっと ふたりめざめるよ

目覚

うまれたあいはやさしいはねのおと

生 愛 優 羽 音

きずつきたくない でもはなさない

傷付 離

つかまえてよなんども

捕 何度

めぐりあうさだめ ゆめでときをわたれ

巡 合 定 夢 時 渡

いたみにひきさかれ むねはきみをよぶ

痛 引 裂 胸 君 呼

うつろなひびはもういない

虚 日々

いたみにひきさかれ いきるよろこびを

痛 引 裂 生 喜

きっときっと ふたりたしかめる
確

こどくがほほをぬらすぬらすけど
孤独 頬 濡 濡

よあけのけはいがしずかにみちて
夜明 気配 静 満

わたしをそらへまねくよ
私 空 招

きぼうがかなたでまってるまってるはずさ
希望 彼方 待 待

たがいをうけとめるたびにひかれてく
互 受 度 惹

かなしいひびはもういない
悲 日々

たがいをうけとめていきるよろこびは
互 受 生 喜

きっときっとあつく
熱

いたみにひきさかれむねはきみをよぶ
痛 引 裂 胸 君 呼

うつろなひびはもういない
虚 日々

いたみにひきさかれいきるよろこびを
痛 引 裂 生 喜

きっときっとあつくきっときっとふたり
熱

てにいれる
手

こどくがながれだすほほへと
孤独 流 出 頬

まよいながらもきみをみつけたよ…
迷 君 見